福島県立図書館所蔵 貴重郷土資料探照 19

「明治五年飯坂湯野十綱渡架橋発起記録」

飯坂温泉駅に降り立ち右手に見える十綱橋は、温泉街のシンボル的存在です。

古くは、『東鑑』に‘藤の十綱’と著されましたが、大鳥城主佐藤基治が 1189 (文治 5)年の奥州合戦の折、防備のため橋を切落とし、以来渡しになったとも伝えられており、古来より摺上川両岸に位置する伊達郡湯野村と対岸の信夫郡上飯坂村を結ぶ要所であったことがうかがえます(①)。また、陸奥国の歌枕としても有名であり藤原親隆が、

みちのくの十綱の橋にくる綱のたえずも人にいひわたるかな　（千載和歌集）(②③)

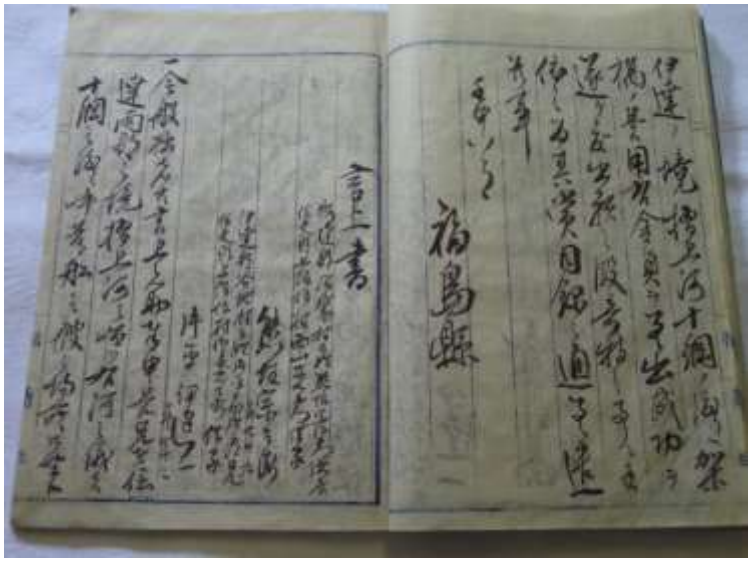
と詠んだ和歌がよく知られています。十綱の橋で手繰る綱のように絶えることなくという意味合いで、長い求愛の年月を詠嘆しています。

信夫伊達の地誌として馴染深い『信達一統志』［1841 (天保 12)年］(④)によると、「上飯坂邨」に‘十綱津（ワタシ）’の項があり「邨の東信達の境所謂摺上川なり　古ハ綱十筋を両岸に引張　小木を綱の上にならべ繋ぎ橋となす　故に十綱の橋と云う　後世ハ津頭（ツナワタシ）となす　故に渡綱津（ト ツナノワタシ）と云えり　十（ト）と渡（ト）と其音似たればなり」とあり、今から 300 年ほど前の『上飯坂村絵図』(⑤)などには、‘十綱の渡し’が描かれており渡し舟があったことが知られています(①④⑥⑦)。

この度、当館所蔵の 10 丁ほどの『明治五年飯坂湯野十綱渡架橋発起記録』をデジタル化することにあわせ、1873 (明治 6)年に実現した架橋について書かれた関係資料を調査しました。

冊子に‘福島縣’の文字が罫紙にあることからも県庁文書の写しなどの一部ではないかと考えられます。四つ目袋綴じの装丁で、青い表紙と裏表紙にはそれぞれ 3 個の浮印があり‘若松愛氿堂梓’‘会津風土記’‘〇〇〇局編〇〇’と見えます。この冊子はもともと 3 つの独立した文書だったものが、装丁される段階で 1 冊になったのではないかと思われ、題箋は後付けの気配を感じます。

『明治五年飯坂湯野十綱渡架橋発起記録』表紙



『　同左　』4 丁裏～5 丁表

さて本題は、この流麗な筆遣いの冊子に何が書かれているかです。

1～2 丁は、1872 (明治 5)年 8 月に県令安場保和が大蔵大輔井上馨に送った届書の写しで、内容は、福島県が架橋に尽力した熊坂宗兵衛・片平伊達一を褒賞したことを政府に報告したものです。熊坂は 79 歳という「老衰」、片平は「盲目」という境遇にありながら、年来の積金を寄附して運輸往来の便を図ったことは「奇特」であるため、「人心振起開化之機」を失わないように賞与を与えたことを報告したものです(⑧⑨)。同一の内容が記されてある『県申牒外五件』(明治 5-6 年)は、「福島県庁文書」F295 に収録されており福島県歴史資料館に収蔵されています。この冊子には井上からの指示が朱字で書き込まれています。

3～4 丁は、同年 8 月に福島県が熊坂・片平に送った文書の控え二通で、両名の行いを賞詞し、褒賞して目録を贈呈しています。日付や目録の品が何であったのかは記されていません(⑧⑨⑩)。

5～6 丁は、1872 (明治 5)年 7 月に熊坂・片平が福島県に宛てた建言書の写し。書かれた年月日の順に並べるなら、一番最初に来るものです。熊坂・片平両人が、摺上川の十綱の渡しに架橋を願い、戸長に提出し県庁へ回付されたものです。内容は、十綱の渡しが洪水によって牛馬の交通や商人の荷物に被害を与えたり、川の両村の往来に支障を来たすために架橋を願い、架橋の資金として両人が商いや針按摩で貯めた百五十円を寄附するので、これが架橋の契機となって有志が続くであろうという趣旨が読みとれます(⑧⑨⑩)。

福島市史編纂委員を務め郷土史研究家の秋山政一氏は、「飯坂温泉「十綱橋」について」(⑩)の中で、旧湯野役場文書『村政略史』(⑪)に書かれた一文「明治五年県令安場安和県内巡視中誤って傷痍を受け、治療のため穴原温泉畠清作方に逗留、按摩業盲人伊達一なる者、親しく地方状況を聴取あり」を示し、伊達一との出会いが、はからずも摺上川架橋という出来事の発端になったと書いています。

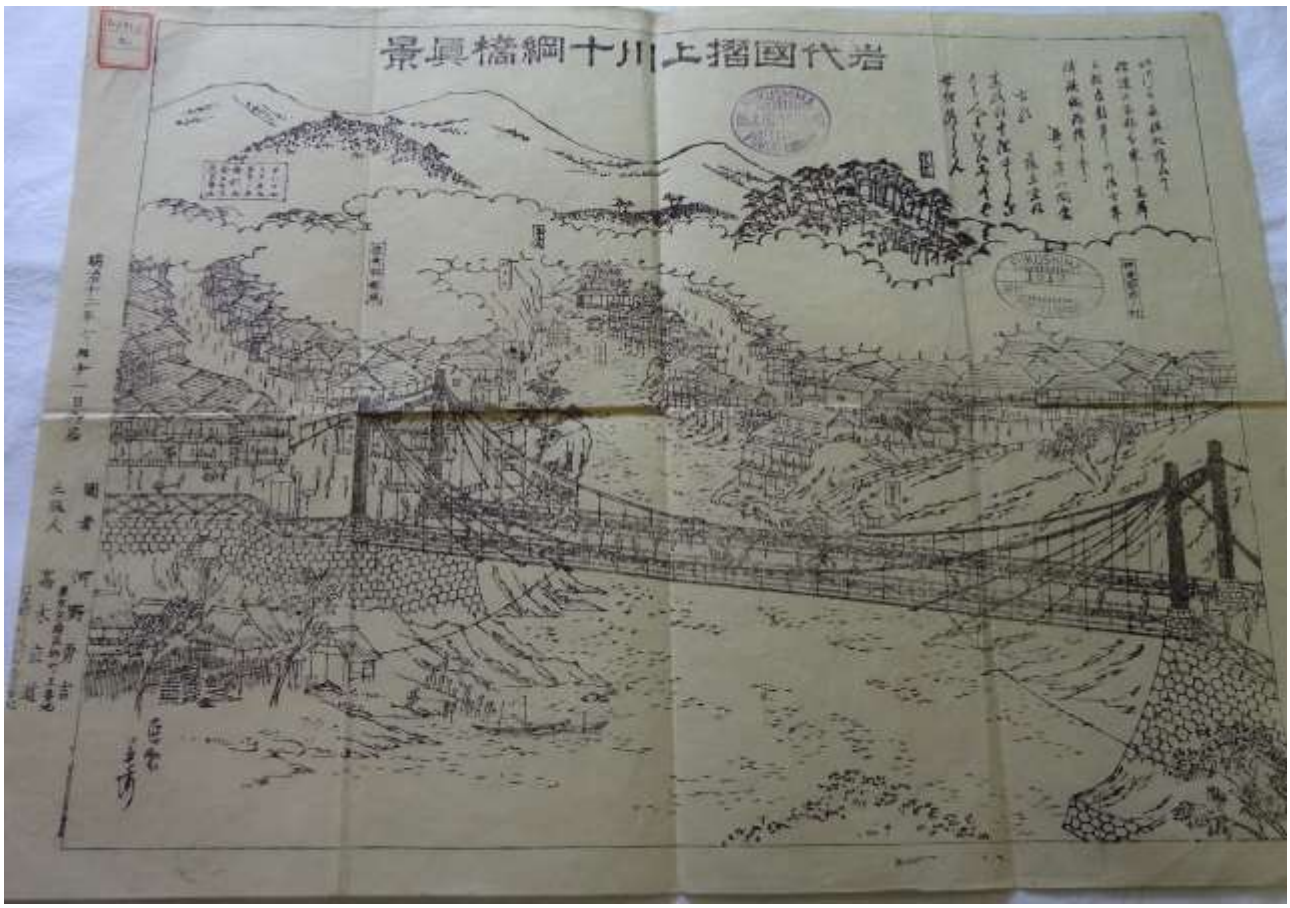
また、所蔵する関係資料の中に大正初期に刊行された『湯野温泉』(⑫)にも、「十綱橋の由来」の章には熊坂宗兵衛と盲人伊達市[一]、安場保和の出会いや歴史などが丁寧に書かれています。

1873 (明治 6)年 12 月竣工、不便な渡し舟から橋に替わり人々の喜びはいかばかりだったろうかと思われますが、翌年 9 月に突然落橋。その翌々年には県費による架け替えが行われ 10 本の鉄線で支えられた木製吊橋「十綱橋」が架けられました。次ページの写真は、この 1875 (明治 8)年 5 月に架けられた橋を模写した『岩代国摺上川十綱橋真景』(⑬)で当時の雰囲気を伝えています。1915 (大正 4)年には、鋼アーチ橋「十綱橋」が完成します。

なお、後年に語られる片平伊達一の人柱説などの伝承については、野地一二氏の「飯坂十綱架橋筆頭発起人熊坂惣兵衛と県庁文書」(⑧)、前掲秋山氏の「飯坂温泉「十綱橋」について」(⑩)に詳しく書かれています。

この度の原書の解読と読み下し、解釈などについて福島県歴史資料館学芸員にご指導をいただいたこと深く感謝申し上げます。

（地域資料チーム　菅野由美）



『岩代国摺上川十綱橋真景』(⑬)

二代目の明治 8 年 5 月に完成の木製吊橋十綱橋を模写した資料（福島県立図書館所蔵）

参考文献

①『日本歴史地名大系』第 7 巻　福島県の地名　平凡社　1993

②『新日本古典文学大系』10　千載和歌集　岩波書店 1993

③『訂正増補信達二郡村誌』巻之三 仙台 香雲精舎 明治 33(1900) 18 丁表より上飯坂村 26 裏-27 丁表に十綱橋あり

④ 『信達一統志』巻之七　志田正徳/撰　自館複製　ルビはママ
元の出版事項：〔出版地不明〕 志田正徳 〔天保 12(1841〕 原本：福島大学教育学部図書館所蔵

⑤ 当館には所蔵なし。⑥に写真の掲載あり

⑥『飯坂のシンボル　十綱橋』　十綱橋百年記念事業実行委員会／編･発行　[2016]

⑦『福島市史』第 1 巻　原始・古代・中世（通史編 1）　福島市史編纂委員会／編･刊　1970

⑧「飯坂十綱架橋筆頭発起人熊坂惣兵衛と県庁文書」野地一二/著
『福島史学研究』福島県史学会　第 49 号　1987　p. 33-56

⑨『安場保和伝 1835-99』安場保吉/編　藤原書店　2006

⑩「 飯坂温泉「十綱橋」について」（上）（下）秋山政一/著
『福島史学研究』福島県史学会　復刊第 21 号(通巻第 27) 1976　p. 37-48,
及び復刊第 22 号(通巻第 28) 1976　p. 45-50

⑪「村政略史」
『福島県歴史資料館収蔵資料目録』第 47 集 福島県文化センター歴史資料課/ 福島県文化振興財団 2016 p. 33

⑫『湯野温泉』新妻掬浪/著　大正 5(1916)　「十綱橋の由来」の項あり　p. 21-32

⑬『岩代国摺上川十綱橋真景』河野勇吉/著　高木直道 上飯坂(福島県) 1879　33×46ｃｍ